



人間と感染症との戦いはずっと続いていま
す。古くはペスト、天然痘、近くはエボラ出血熱
や麻疹、デング熱などのように国をまたいで流
行する病や、国内でも毎年あるインフルエンザ、
ノロウイルス、今年流行した手足口病など、枚挙
にいとまがありません。人間だけではなく畜産

「このニレの木に衣服を結び付けると病気が治
る」と信じられてきたとのことでした。二十世紀
初頭に世界中で流行したスペイン風邪もこの森
で止まったこと、現在でも衣服を巻きつけて
祈る人々がいるのです。

この由来を聞きますと、十五世紀にヨーロッ
パ各国でペスト(黒死病)が流行したとき、この
森のところで感染拡大が止まり、隣村は全滅し
たのにセナポンの村は無事だったことから、感
謝とともに聖クロードの礼拝堂が建てられたの
だそうです。古いケルトの風習とも混じり合い、

パリから北西のノルマンディーの海岸へ向か
うと、途中でセナポンという村を通過します。村
の境界には小さな森があり、そこで奇妙な光景
に出会いました(写真)。木々の幹に衣服やポロ
切れが巻き付けてあるのです。何やら「ほこら」
のようなものもありました。

感染対策チーム(ICT)から

チームリーダー(副院長) 庭山 英俊

人間が感染症を根絶するのは夢のまた夢かも
しれません。しかし私たちは無用な感染拡大を
防がなければなりません。そのためには新しく
正しい知識の習
得・周知と、毎日
の地道な感染対
策が重要となり
ます。感染対策
チームは、院内で
起る感染症か
ら患者さん・家
族、職員を守る活
動をこれからも
実践していきたく
と思います。



人間が感染症を根絶するのは夢のまた夢かも
しれません。しかし私たちは無用な感染拡大を
防がなければなりません。そのためには新しく
正しい知識の習
得・周知と、毎日
の地道な感染対
策が重要となり
ます。感染対策
チームは、院内で
起る感染症か
ら患者さん・家
族、職員を守る活
動をこれからも
実践していきたく
と思います。

業界でも、鳥インフルエンザや豚コレラ感染の
ニュースは記憶に新しいところでは
人間は細菌やウイルスを制圧する薬を作り出
して対抗しましたが、近年はその薬も効かない
「耐性菌・多剤耐性菌」が強い相手として登場
してきました。健康な人にはそれほど害がある
菌ではないのに、抵抗力が衰えた人では薬が効
かず命を落とすこともあります。

ご存知ですか？『家族教室』

当院では年間5回、家族教室を開催しています。ご家族に疾病・治療についての正しい知識を
もってもらい、かつ、ご家族同士の交流の場を提供することを目的としています。

内容は講義とグループワークで構成され、前半の講義は、病気や薬、福祉制度をテーマに当院ス
タッフが講師を担当しています。テーマによっては外部機関に講師をお願いすることもあります。

後半のグループワークは参加された方々から「相談したいこと」を挙げてもらい、それについて
スタッフも参加してみんなで話し合うというスタイルをとっています。グループワークだからと
言っても必ずしも発言しなくてもよく、自由な雰囲気話し合えるようにしています。また、講義の
テーマや運営方法はご家族の声を参考にしています。

家族教室への参加は、事前申し込み不要です。当院の患者ご家族であればどなたでも無料で参加
可能です。3階会議室で開催しています。1ヶ月くらい前から外来や
各病棟に案内を掲示したりしてお知らせしています。「もっと詳しく
聞いてみたい!」という方は当院スタッフに遠慮なくお問い合わせく
ださい。



今後の開催日程
令和元年度第5回
令和2年3月6日(金) 午後1時15分~
※テーマは精神科薬について行う予定です。

令和元年度 認知症疾患医療センター多職種 研修会・市民公開講座 ~人生会議始めてみませんか~

「人生会議」(ACP アドバンスド・ケア・プラ
ンニング)とはもしもの時のために、あなたが望む
医療やケアについて前もって考え、家族や医療・
チームと繰り返し話し合っておくことです。
もしもの時のことを準備しておきませんか。

日時：令和元年12月14日(土)
13:30~15:30(13:00開場)
場所：青森県立中央病院 3階研修室
定員：50名(先着順)
【お問い合わせ・お申込み】
当院 認知症疾患医療センター
【電話】017-787-2121 担当：津川
【締め切り】11月29日(金)
詳しくは当院HPをご覧ください。

ヘルスリテラシー図書のお知らせ

ヘルスリテラシー(健やか力)とは、自分にあった健康情報を探して、理解し、使える力のことをい
います。つくしが丘病院を来院された
皆様に、このヘルスリテラシーを身
につけていただきたく、健康や医療
に関する図書を、青森県立保健大学
よりお借りし、12月末まで、外来の
待合室に設置しています。ジャンル
は「健康増進」「病気について」
「食育」「寝たきり予防」「メタボ
予防」など多岐にわたっています。
外来受診の待ち時間に、ぜひ本を手
にとっていただき、ヘルスリテラ
シーをアップしていただけたらと思
います。

◎ 編集後記 ◎

先日、当院近くの路上でまたリスを見た。車の前をフッサフサの尻尾をなびかせながら横切り左の草藪へ
と消えた。可愛い。今頃何してるだろう。さて、このところ夕暮がどんどん早まり、車のライトの早め点灯
を促される時期でもある。なお米国では、昼間でもライトを点けるのが当たり前となっている。ライトの役
目は、自分が見るためというより、相手に自分の存在を知らせるためのものなのだ。と国鉄のSLの運転士
も当時同じことを言っていた。某保険会社CMによると3件に1件がもらい事故だという。道路は自分だけ
のものではない。路上にはリスもいるのだ。

編集委員 齊藤 哲宏

令和元年度高齢者認知症支援研修会

医療連携室次長 柏谷真喜子

令和元年9月25日、ホテルクラウンパレス青森において、「令和元年度高齢者認知症支援研修会」が開催されました。サポーター医や包括支援センター職員、行政の方々など総勢100名の参加がありました。

まずは情報提供として、私が「当センターの取り組み状況」を説明しました。当院には平成21年度より認知症疾患医療センターがあります。認知症相談の他、医師が鑑別診断を行ったり、協議会や研修会も行っています。平成29年度より、認知症の人もそうでない人もともにタスキを繋いで走るRUN伴というイベントに参加し、広報活動も行いました。

今回は、医療法人ルポアヴェール中野脳神経外科・総合内科クリニック院長 中野高広医師をお招きし、認知症サポーター医の取り組みをご紹介いただきました。講演の中で、認知症医療に求められるのは、「共感できる能力と深い人間理解。治療が必要なのは『生活』と『家族』と『尊厳』である」と話されていたのが印象的でした。

その後、「認知症における現状や課題、今後取り組みたいこと」というテーマでの意見交換がありました。受診をさせたくても本人が拒否をして診療に繋がらないケースや、本人が認知症検査を拒否することがあっても、患者さんの身近にいる家族が行うABC検査というのを実施しているという新たな情報もあり、有意義なものとなりました。

当センター長の庭山副院長より「早期発見早期治療といわれているが、認知症の人とご家族が住み慣れた地域でどう生きていくかが大事ではないか」と結びの言葉があり、和やかな雰囲気の中、閉会となりました。

認知症に関わる職種が一同に会した研修会を今後も継続して、

顔の見える繋がりを持っていきたいと思っています。



今年もRUN伴に参加しました

医療連携室 精神保健福祉士 津川貴史

令和元年8月24日、今年も当院の認知症疾患医療センタースタッフがRUN伴へ参加しました。RUN伴(ランとも)は、認知症の人と接点がなかった地域住民と認知症の人や家族、医療福祉関係者が一緒にタスキをつなぎ、日本全国を縦断するイベント(HP参照)で、平成29年度から当センターでも参加しています。昨年は平内町まで走りましたが、今年も青森市内を走りました。とても天気が良く暑さが厳しい日でしたが、地域住民の方にお声がけいただいたりもして、とても励みになりました。

認知症というのは、とても身近な病気ですがマイナスイメージで語られがちです。

しかし、認知症の人でも地域で伴に暮らす大切な隣人であることを伝えるイベント(HP参照)ですから、来年も走る予定ですので、見かけた際にはお声がけください。



令和最初の院内カラオケ大会開催!

毎年恒例のカラオケ大会が9月10日の午後、レクリエーション室にて開催されました。

各病棟から合わせて8名の方が出場し、静かな曲や盛り上がる曲などを熱唱していました。また飛び入り参加もあり、患者様のほかに看護師さんにも歌っていただき大いに盛り上がりました。

病棟ごとで応援者の参加もあり、気合を入れてうちわを準備して応援していた病棟も見られました。令和最初のカラオケ大会でしたが、盛会のうちに閉会しました。

参加した皆さまお疲れ様でした。



ママの健康展に参加しました

10月19日に第49回こころの健康展が、「ママエダガーラモール店」で開催されました。

会場には、作品展示、販売コーナー、わなげやクイズラリーなどがありました。クイズラリーは行うと景品がもらえるため、来場者の方はお子さんから大人の方まで楽しまれている様子でした。当院からも患者さんやスタッフの方が参加し、気分転換にもなったようでした。

作品展示コーナーでは、当院の患者さんが作業療法で作った作品のほかにも、他院の作品もありたくさん作品がありました。

作品を見た来場者の方からは「かわいいね」「すごいね」「きれいだね」という声があがっていました。

雨の日での開催となりましたが、多くの来場者の方がいて大盛況のうちに終わりました。

今回作品を出品してくれた患者さん、わざわざ会場にお越しくださった皆様、ありがとうございました。



「昭和な」待ち合わせ

院長 堀内雅之

ポケットベル(今ではほとんど死語)や携帯電話が一般的になるまでは、駅の伝言板などで待ち合わせの連絡の工夫や調整をしていました。がうまくいかないことも多く、その分出会いや運命のくいちがひも起きました。

高校入学直後の日曜日、同級生になったばかりの堺市に住む3人と会って遊ぶことになりました。それまでのわたしの生活圏はどちらかというと大阪府南部の泉南地方中心で、堺の駅という南海本線堺駅と国鉄(JR)堺市駅か思い浮かばず、彼らが指定した中間地点の南海高野線堺東駅は念頭になく、「サカイヒガシ」は「サカイシ」に聞こえ当然堺市駅に行きました。当日堺東駅で待ちくたびれた彼らはわが家に電話、わたし以上に疎い母が「堺の駅に行った」と答えたので彼らは堺駅に移動、一方わたしも誤りに気づき堺東駅に向かい、その後堺駅にたどりついた時には伝言板に彼らの怒り(あきれ)が伝わってくるような文字で「本日は解散!」とありました。

翌日少しなじられましたが、この失敗を機に大いに交流が深まり高校生活の多くの時間を共にし、ついでにもう1年間予備校で全員一緒に楽しく過ごしました。